

「家がいいね」 第187号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2019. 12. 6

わたしの まちが良かった

わたしのまちが良かった
わたしの まちが良かった
こうして 草にすわれば
それがわかる

八木重吉 1925

「草にすわる」より



外来患者さんが持つ教科書副読本にあった詩が眼に留まりました。他の患者さんにも紹介しようと、声に出して詠んでみると、作者の心の震えが伝わってくるではありませんか。憤った時の言葉や態度が、時間が経ち、場所を変えると、自らに還って来る思いだと感じます。何度も何度も反省が胸を過(よ)ぎるのでしよう。区切りの空白で、声を止めるたびに、眩きが聞こえます。「あなたの問題もあつたらうが、やはりわたしの」「その時の空気もあつたらうが、いまこうして」「草がわたしを冷やすように思えば」「そつだったのか」と分かるのではないでしょうか。人は人の中だけではなく自然の中に身を晒さなければと思います。

共に生きる場を作るのが、ホームホスピス

治療やりハビリをしても機能低下で再び病院へ戻ってきてしまう経験があるものです。その問題に取り組む話をホームホスピス研修会広島で聴きました。鞆の浦さくらホームの地域共生の活動の実際です。施設の中で、管理するようにケアをしていると利用者の持つ生きる力は見事に削がれてしまうのです。私達の生活が地域で時を過ごして生きていくように、施設から周囲の場へ出るべきなのです。介護職員に負担がかかると思ったけど地域の人と一緒に受入れの輪に入るとケアをする楽しみが共有されたとのこと。言葉だけではなく、個々の繋がりが地域を作り変えます。障害児者にもノーマライゼーションの場になります。



ちょっと歴史の旅もしてきました

広島まで行ったからには宮島まで足を延ばしました。連絡船で厳島神社に渡るも海の大鳥居は工事中のため直に拝見できませんでした。世界遺産に指定された、海中の建造物の廻廊を巡りました。写真は、能舞台の近くから撮ったものです。

古来の能がどう演じられたかの想像も楽しいですよ。次第に薄暗くなる中を人々

を乗せた和船が大鳥居を通り2百メートルを漕ぎ廻廊の先端(火焼前ひたさき)に着きます。本殿を遠くに見て、その手前の高舞台での舞いを観たかもしれません。さらに船は回り込んで能舞台の前で舫つたのでしよう。焚き木や灯りが、周囲の赤い柱などに映えたことでしょう。闇が深まる頃、能が始まります。その能は生と死を演じるのです。現世まで多くの戦いが近くであったわけですが、この環境をよく伝え残したものだと感じます。



休診日のお知らせ



土曜日休診をご了承下さい。
12月21日(土)
1月11日(土)
年末は12月28日(土)まで開院し、年末年始の休診は、29日から1月3日です。

診療科目の追加お知らせ

12月から、内科・心療内科に加え、精神科を追加いたします。今までと診療は変わりませんが、精神科医でないとできない内容への対応をいづれさせていただきます。


いせ在宅医療クリニック

自宅での人生を
最期まで支援します

〒516-0805
三重県伊勢市御園町高向 927
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105
メール homecare@kr.tcp-ip.or.jp
ホームページ <http://isezaitaku.com>

↑バックナンバーはここで閲覧可